

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501373		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	〒005-0824 北海道札幌市南区南沢4条1丁目7番10号 (電話) 011-573-3700		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成20年12月17日

## 【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	12月	1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	23 人	常勤22人, 非常勤1人,	常勤換算22.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	16,000~24,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,433 円

### (4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛全会 愛全病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体では、16ユニットのグループホームを有し、当事業所「ひだまりの丘」は、3ユニットの事業所として平成13年に設立している。法人内においても比較的年齢の高い方が利用している事業所である。正面玄関を境に左右に1ユニットずつ、正面階段を上がって2階に1ユニットを配置している。母体法人である愛全病院の強力な支援の下、医療連携体制を取り、利用者及び家族の安心に繋げている。大きな法人であるため職員の交流も多く、法人全体で研修に取り組み、良いケアを目指している。近隣に幼稚園、小学校、大学があり様々な交流が持ち、地域との繋がりを大切にしながら、利用者が当たり前前に地域で暮らすことを支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回期待したい項目であった「家族の意見の反映」は、職員全体で検討し、運営推進会議へ多くの家族の参加を呼びかけたり、アンケートを通して家族の思いを受け止め、その意見を反映するような取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、日々のケアの振り返りの機会として活かしている。第三者の目線の大切さを理解し、外部評価は全体で話し合い、気づきや改善の機会としてケアの向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には全家族が自由に参加できる体制とし、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員とで、2ヶ月毎に開催している。事業所や利用者の状況を説明し、また各種行事の報告、案内、呼びかけ等を行い、事業所への理解を図っている。会議での意見を検討し運営に反映するよう心がけ、その結果を次の会議で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や運営推進会議での意見を検討するとともに、年1回家族のアンケートを実施し、家族の意見の反映に努めている。また、意見を外部に表出できるよう第三者機関の窓口も複数提示し、ケアのサービスの見直しや改善に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	盆踊りや運動会、草取り、清掃など町内会行事に積極的に参加している。近隣の幼稚園、小学校、大学との交流も盛んで、大学のラベンダー祭りやコンサートにも参加し、また、事業所の夏祭りには近隣住民が多数参加している。地域の救急講習も共に行い、地域との連携体制の構築にも努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との繋がりを大切にして、平成18年に理念の見直しを行い、『地域の愛に生まれながら安らぎとぬくもりのある生活が送れるよう』支援するという事業所独自の理念を掲げ、ユニット毎にケアの目標を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所全体で毎朝、朝礼を行い、申し送りの中で理念を共有し、常に理念を念頭に置きながら実践に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会で行われる新年会や運動会、事業所近隣の大学でのコンサート、ラベンダー祭りにも参加している。また、地域住民から野菜の収穫物が届けられたり、ボランティアによる生花教室も行われるとともに、事業所祭りの際には、多くの地域住民が参加するなど、積極的に交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が関わり、日々ケアの振り返りの機会として活かしている。外部評価は、第三者の目線の大切さを理解しながら、評価を受け止めて、改善に努め、ケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員を交え、事業所職員と共に2ヶ月毎に会議を開催し、事業所及び利用者の状況を報告し、そこでの意見や希望を事業所全体で検討し、サービスに活かすよう努めている。特定の家族のみならず誰でも参加できる体制で、事業所への理解浸透と意見の収集に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者会議に参加したり、市の依頼による認知症介護実践者研修の実習受け入れも行い、事業所の機能を活かしてサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の写真を豊富に掲載したユニット毎のたよりとともに、個々の暮らしぶりの報告を毎月家族に送っている。また、時々メニュー表なども送付している。家族の訪問時には、日常的な様子も報告している。訪問が困難な家族には、電話で報告している。外部評価の報告も全ての家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートを実施するとともに、運営推進会議で家族の意見を聴取し、運営に反映するよう努めている。重要事項説明書に第三者機関の窓口も提示し、苦情受付手順や流れも分かりやすく説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は多いが、新人職員は直ちに利用者に関わらず、慣れた職員と共に少しずつ様子を見ながら関わりを多くするなど、利用者の不安を少なくするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からグループホームとして5つの委員会を立ち上げ、教育委員会で年間の研修計画を立てている。内部研修は、健康、医療、ケア、接遇、栄養管理のほか、様々な分野の内容で毎月行っており、職員は、積極的に参加し、ケアの質の向上に取り組んでいる。また、外部研修についても研修情報を運営者が職員に提供し、参加を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の管理者・スタッフ研修や、区の管理者会議で意見交換を行い、ケアに活かしている。	○	職員は、グループホーム協議会の全体研修で交流を図っている。今後は同業者との実践的な交流も多くし、ケアに活かすことを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のそれまでの生活状況を確認し、事前に事業所の見学をしてもらうようにするなどし、円滑な利用に繋げている。機能の低下が進んでいる利用者の納得を得るのは難しいが、家族とよく話し合い、本人が馴染めるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日常会話の中で、生活の知恵や創意工夫を学ぶ機会を得ている。離れた場所にある事業所の畑の作物と一緒に収穫したり、漬物作りも共に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や日常会話の中から思いを汲み取り、また、家族から情報を得て、意向を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を採り入れ、職員間でもよく話し合い、個人記録、カンファレンスを通し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度見直しを行っているが、毎月のカンファレンスの中で、担当者から本人の状況を聞き、心身の変化に応じてその都度計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の下、医師、看護師と密に連携し利用者の健康管理に努めている。家族の状況にあわせた通院支援を行うとともに、利用者の希望に沿い、コンサートや買い物、地域の行事への参加など柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人と家族で相談し、医療機関を決めている。ほとんどの利用者は訪問診療を利用し、24時間医師と連絡が可能である。2週間に1度訪問診療を、週1度訪問看護の利用を行っている。その他、かかりつけ医の受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応指針」を作成し、本人、家族に提示し説明をしている。医療連携体制の下、段階的に本人、家族、医師、職員等各関係者と話し合い、方針を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドや羞恥心に配慮し、穏やかな言葉かけを行っている。個人情報の保管は事務所内の決まった場所に保管し、管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など一日の流れはあるが、利用者のその日の体調を考慮しながら、日中の予定を決めている。利用者は、居室でゆっくり過ごし、自由に編み物をしたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	比較的高齢の方が多いが、一人ひとりのできることを大切にし、料理の盛り付けや配膳に関わっている。食材も豊富で彩りもよく、食欲をそそる工夫もしており、職員と利用者が共に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は何時でも可能であり、夜間も希望があれば入浴支援をしている。あまり入浴をしたがらない利用者には、その日の気分や体調を見ながら声かけをしている。入浴の少ない利用者には清拭を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳等の食事の準備を役割として行っている利用者もいる。また、趣味の編み物を楽しんだり、気晴らしに近隣の大学まで花を見に出かけている。仏壇のお供えやタバコ・酒などの買い物支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調、意思に沿って、近くの公園へ散歩に出かけている。外出の少ない利用者には、近くのコンビニへの買い物へ誘うなど外出を促している。天気の良い日はベランダで過ごすように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関はオートロックになっているが、ユニット毎の玄関には日中は鍵をかけていない。出入り時にはチャイムが鳴り、安全確認ができるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行うとともに、火災報知器を設置している。避難マニュアルを作成して、カンファレンス時には確認し、緊急連絡網も分かりやすい所に掲示している。今後は、夜間の訓練も計画している。	○	運営推進会議で避難訓練の報告等はしているが、今後は、手薄となる夜間時の災害に際して地域住民の協力体制を確保し、避難した利用者の安全確保も含め検討することを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立の下、食材は契約業者から配送してもらっている。不足分は近くのスーパーで調達している。栄養バランスや量は、管理栄養士、医師の指導の下、調節をしているが、基本的に同じ献立を提供している。水分量、食事の摂取量は細かく記録し、必要量を確保している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも向きの違いはあるが、基本的に同じ間取りとなっている。廊下や居間、テラスなど、全体的に広くゆったりとした居住空間となっている。浴室の手すりも職員で話し合い必要箇所に追加するなど、安全への工夫も施している。さりげなく季節感を思わせる壁掛けや手作り日めくりを掛けて居心地の良い工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く、ソファやタンスなど利用者が使い慣れた家具、調度品のほか、仏壇を置いている利用者も多くいる。ドアは開放している利用者が多いが、入り口に長いレースの暖簾を掛けプライバシーを確保し、安心して過ごすことができるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。